

海洋汚染進行防止啓発ポスターを制作する

3年 B組 26番 原田 菜里



1. はじめに

私は、昨年の総合探求において海洋汚染の現状を知った。その中で、海洋汚染の中でも私たちの生活が大きく関わっているプラスチックごみによる影響に関心を持ち、認知度の向上や人々の意識改善に貢献できないかと考えた。

2. 現状と課題

海洋汚染の原因として大部分を占めるプラスチックごみは、現在年間でおよそ800万トンも発生しており、海に漂うプラスチックごみはおよそ1億5000万トンにもものぼると言われている。加えて、その海洋プラスチックごみが絡まって動けなくなったりすることが原因で、多くの海洋生物が死に至っている。

日本では、2020年7月からレジ袋の有料化が義務づけられ、買い物の際にレジ袋をもらう人の割合は4か月間で71.9%減少したという結果が示された。しかし、プラごみ問題への関心は高まったかというアンケートにおいて、「関心は高まったが意識や行動の変化はない」との回答が21.1%、「関心は高まっていない」との回答が22%という結果も示された。

このように、レジ袋の有料化という政策だけでは人々の意識・行動の改善には繋がっていないのが現状である。

3. 先行研究

電車や駅構内に掲示されているマナー啓発ポスターに着目し、どのようなメッセージがマナーを守ろうという行動意図を活性化させるのかを明らかにした。まず、掲載されているマナーポスターを観察・収集するとともにメッセージタイプを「お願い」「強い禁止」「被害の付加」「呼びかけ」「ユーモア」の5つのタイプに分類した上で、首都圏在住者かつ電車を月1回以上利用する有職者にWEBアンケートを実施した。結果、「お願い」「被害の付加」のメッセージがほかに比べて有意にマナー啓発効果があることが示された。

4. リサーチアクション・仮説

・より人々の目に留まりやすく、興味を惹き付けることができる表現方法を調査したうえで啓発ポスターを制作することで、私たち人間が排出したプラスチックごみが引き起こしている海洋汚染について目を向けてもらうきっかけになれば、人々の意識改善にも繋がるのではないかと考えた。

5. 研究方法

1. 実際にデザインの仕事をされている方に取材を行い、デザインをする際に心がけていることを教えて頂く。
2. アンケートを行い、より興味を惹くことができる表現方法を調査する。
3. 1. 2の結果を踏まえ、自らでポスターをデザインする。

6. 研究の成果・分析

1. まずWEBデザイナーの小川みどりさんに取材を行った。デザインをする際に重点的に心がけていることは、「メインで伝えたいことを必ず一つ決めてから制作に取り掛かること」と「足し算ではなく引き算のデザインをすること」だということ。伝えたいことを絞っておくことで、自ずと文字の大きさや配置が決まってくる。加えて、情報を可能な限りそぎ落とし、伝えるべき情報を伝えるという特徴を持つ引き算のデザインをする際や修正を加えていく際、何を残しておくべきかということが明確になるというメリットがあるそうだ。

2. 次に、本校生徒388名とTwitterから18名の計406名を対象に、「色数の多さ」「モチーフの多さ」「イラストのリアルさ」「キャッチフレーズの長さ」「ポスター内にある長文への関心」の5つの項目においてそれぞれ効果的な表現を調査するアンケートを実施した。尚、使用した広告は各都道府県等から引用した。その結果、次の図のような回答が得られた。

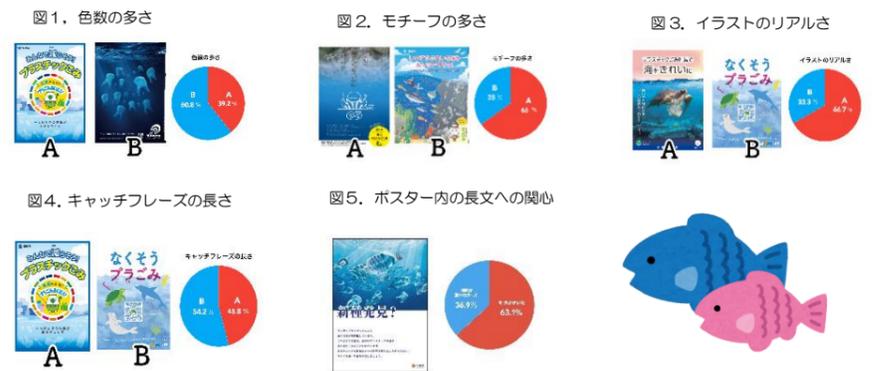
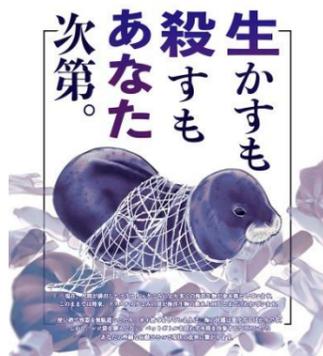


図1～3から、①色数やモチーフが少なく、②リアルなイラストが描かれているものがより興味を惹くことがわかった。また、図4から、③キャッチフレーズの長さは10文字程度であれば関心に大差は出ないこと、④キャッチフレーズ等で興味を惹くことができれば、長文での説明も関心を惹くことができるということもわかった。加えて、色数やモチーフが少ないほうが効果的であったという点から、取材を行った小川みどりさんが心掛けている「引き算のデザイン」の効果も示された。

7. 考察

前述した結果を踏まえ、ポスターに載せるイラストを制作する際は「まず何を伝えたいのかを一つ決める」ことから始め、「色数は抑えるまたは同系色でまとめる」「イラストはデフォルメせずリアルに描く」「画面に描くモチーフの動物や物は数を絞る」ということを条件に制作にあたった。



↑制作したポスター

8. まとめ

これからイラストやグラフィックデザインを手掛ける際に、今回の研究を通して得られた結果をもとに、より目を惹くことができる作品に仕上げていきたい。また、私自身もプラスチック製品などの無駄遣いをしないよう心がけながら生活していきたい。

今回、効果的な表現を探るため、調査する観点以外の条件になるべく差が出ないような広告を引用しアンケートを行った。しかし、完全な対照実験とは言えないため、アンケート用のポスターから自ら制作し、調査する観点以外の条件に全く差がないようにしてからアンケートを実施することで、より正確に調査することが必要である。

9. 参考文献、協力者等

取材協力：WEBデザイナー 小川みどりさん

参考文献：「海洋プラスチック問題について」

<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

「電車内マナー啓発メッセージがマナー遵守行動意図に与える影響」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejpm/73/5/73_I_1033/_article/-char/ja/

「令和2年11月レジ袋使用状況に関するWEB調査」<http://plastics-smart.env.go.jp/reijbukuro-challenge/pdf/20201207-report.pdf>